

第5回南魚沼市まち・ひと・しごと創生推進会議 議事録

平成 29 年 6 月 20 日（火）

午後 2：15～5：00

南魚沼市役所本庁舎大会議室

1.開会

（進行：片桐企画政策課長）

2.市長挨拶

（市長）

本日、皆さんから効果検証をしていただくが、これにあたって、庁内の主要事業検討会議で内部の効果検証を行った。この結果を皆さんの目から見て、どのようなものであるかを含めてご提言をいただきたい。また、この事業無くして市の将来は無いという位置づけの中で進めている事業であるので、広い見地から皆さんのご助言等をお願いしたい。

3.会議

（進行：熊倉委員長）

効果検証をするにあたり、どのように資料のシートを見たらいいのか、事務局より説明いただきたい。

（事務局）

事前配布資料：資料No.1-1、資料No.1-2 により説明

① H28 地方創生交付金事業の効果検証について

○事業No.1 グローバル IT パーク推進事業

（腰越商工観光課長）事前配布資料：資料No.1-2 により説明

（進行：熊倉委員長）

6 月末までに国に検証結果を出さなければならないということなので、率直な意見を委員の皆さんからいただき、市の内部評価がこれでよいかどうか、確認させていただきたい。

<No.1 グローバル IT パーク推進事業>

熊倉委員長	国際大学の中島委員から、この件について意見をお願いしたい。
中島委員	この事業については当初から参画させていただいており、南魚沼市と一緒に立ち上げてきた。当初 16 社を呼び込もうと目標を立ててきた訳だが、初年度に 5 社決まり、その後伸び悩んでいることがこの事業の課題かなと思う。その原因については説明いただきたいと思うが、16 社呼び込んで、継続的に事業を展開できるように取り組んでいただきたい。
熊倉委員長	事務局から伸び悩みの理由と思われること、あるいは、これを含めて逆

	に KPI の課題ではなかったかというところもあったかと思うので、この点について説明をお願いしたい。
樋口産業振興部長	<p>1 点目の伸び悩みの原因についてだが、海外の企業が日本に進出する際の障壁が大きいというところが一番だと考えている。具体的に言うと、最低の会社設立資本金 500 万円で設立しないと就労関係のビザが取れない。そして就労ビザが取れても、未だに長期のビザが取れない。今取れているビザは 3 か月で、3 か月ごとに人が入れ替わる体制となっており、このような制度上の問題がある。H28 年 1 月から 2 月にかけて、インド、スリランカにキャンペーンに行った。その際、非常に反響が大きかった。ぜひ進出したいという企業が実際に 30 社以上あったという実績があるが、いざ実現しようとなるとなかなか難しい点があるのではないかと考えている。</p> <p>この表には載っていないが、4 月末にスリランカの企業がもう 1 社増えた。当初の予定どおり 16 ブースに 16 社入ってくればよかったが、少しずつでも増やしていければと考えている。</p> <p>もう 1 点が、海外の企業が来て、この地域でどういう事業発展があるのかというところ。海外の企業と一緒に仕事をするのに地元の企業も慣れていない、戸惑いもあると思う。進めている自分たちも海外の企業と仕事するのは初めてであり、ほとんど手探り状態だった。それでも徐々に連携が進んできて、市内の製造業の方と連携して新たなシステム作りということで、新潟産業創造機構の補助金を活用して新たな製品開発等も進んでいる。すこし長い目で見ていく必要があると担当としては考えている。</p>
熊倉委員長	今の意見について、塚野委員どうでしょうか？
塚野委員	参入障壁があるのは間違いないと思う。その一方で、他の地域等では進出してくるところもあると思うので、そういったものを参考としながら、もっと広がりが出てくるといいと思っている。具体的にこれをどう改善していくのかという部分で少しコメントがあったが、イメージがわきづらい。
熊倉委員長	克服する方策として、南魚沼市内部の議論として、どんなことが出ているのか？また、とても不安なのが加速化交付金は 1 年なので、その後の財政措置等について、どのように考えているのか？
樋口産業振興部長	<p>今後の考え方は、会社の資本金やビザの関係について、特区の申請をしているが難しいと思われるため、現状で進むしかないと考えている。今後粘り強く要望していくが、すぐに改善は難しいと考えている。</p> <p>2 点目の財政措置にも関係するが、1 年目は交付金を活用してハードの整備、オープニングイベントや宣伝等を行ってきた。今後一番考えなくてはいけないのは、これからは実務面で地元企業、もっと範囲を広めて新潟県の企業、あるいは首都圏の企業とのマッチングということで、このような資源がありますから一緒にどうでしょうか、というようなソフト</p>

	面での支援を重点的に行っていかなければならないと考えている。
熊倉委員長	塚野委員、今の答弁についてどうですか？もう少し踏み込んだ方がいいとか、アイデアがあればお願いしたい。
塚野委員	アイデアは無いが、実際にできることはそうだなと思う一方で、IT関連の企業を国外から進出させるインセンティブとか、どういったことでここに来る意味があるのかという部分のプロモーションとか、そういったところが無いとさらに増やしていくというのは、現実的にはハードルが高いのかなと思う。ビジネスマッチングを拡大していくのは、すごく大事なことだと思うが、当地でやる意義という部分をもっと少し見出ししていくことと、当地でやることでこれだけ成功できるんだという部分を訴求していくことが大事なのかなと思う。具体的なアイデアが言えず申し訳ないが、そういったところが必要だと思う。
熊倉委員長	ある意味ではビジネスモデルを作ったり、ビジネスマッチングをしたり、国内外の皆さんを育てるとというのが国際大学の役目だと思うが、中島委員、何かアイデアはないか？
中島委員	IT企業ということで、ソフトウェアの開発をしている会社だと思うが、東京方面だと、国内でソフトウェアを開発しているというよりも、東南アジアが主流だと思うが、オフショアと考えると、東京の企業とインド、スリランカの企業との橋渡しをするような、オフショアのコンサルティング会社を入れると、もしかしたら繋がるのかなと考えている。
熊倉委員長	それを考えていただくと、とても良い構想になると思う。地元の企業人として羽吹委員、この話が入ってきているか？
羽吹委員	正直言って、話は入ってきていない。実際どういうことをやっているのかは、地元の企業としては、聞こえてこないのによくわからない。
熊倉委員長	今までは海外企業を呼び込みたいというところに目が向いていたが、今後は地元企業と話を繋ぐことも地道に行っていたきたい。大谷委員、北越急行として話を聞いているか？
大谷委員	北越急行はIT企業との取引はないが、テレビでITパークが紹介された映像は見て、実際入居して事業をしている企業があり、いよいよ形になって動いてるなど実感した。第三者的な立場で見ると、なぜ南魚沼に遠くから来ていただいたのだろう、何がしたかったのだろう、どういうことがしたいのだろう、ということをお伺いしないと、こちら側もどういう形でアプローチをしたらいいのかは難しいと思う。たぶんビジネス的にはわずか200キロと近い首都圏の企業が一番魅力なのだろうと思う。それでもここにいる限りは、どういうコネクトを持ちたいのかというところを教えていただければ、地元企業としてもこれだったらということが見えてくるのかなという気がしなくもない。
熊倉委員長	藤ノ木委員、何かこのような相談を受けたことはないか？
藤ノ木委員	受けたことはない。具体的に話を聞いたこともないし、地元の方は、たまに市役所に行ったときにどこだろう？と覗いてみるぐらいの感じでし

	<p>かないと思う。先ほどから地元の企業という話だが、ITの技術者の方と地元の企業が結びつくかという、あまり結びつかないと思う。やはり首都圏の方を窓口に向けたセールスをしていくしかIT企業にとってメリットはないのかなと思う。四国にITタウンができたという話を聞いてもそうだが、働く方はたぶん田舎にいる方が住みやすかったりすると思うし、ここで働いていただいて、首都圏に向けて発信していくという方がいいと思う。地元の企業とは逆に結びつかないという気がする。IT関連の仕事というのがよくわからないが、場所を選ばない業種だと思うので、ビジネスマッチングという面では、地元企業を対象にするというよりも、せつかく170キロくらいの距離で、高速で行けばすぐ首都圏に行けるので、個人的にはそちらの方がいいと思う。</p>
熊倉委員長	<p>このことについて、ほかに意見のある方は挙手願いたい。 (樋口委員が挙手)</p>
樋口委員	<p>グローバルITパークの方と昨年度末くらいから北里学院のシステムのサブシステム的なところができないか、相談させていただいている。まだ仕事をお願いできる状況ではないのだが、話をされていて、アダムイノベーションは非常にアイデアが豊富で優秀な方だという印象を持っている。コーディネートしているのがアダムイノベーションで、入居しているIT企業との橋渡しをしている。今ほど説明があったように、本国に帰らなければいけないとか、入居企業がここでの成功事例を上げたいというところを急いでいるというイメージがあって、我々や自治体のように、年度予算単位で動いているところを理解していただくのに少し時間がかかったかなと思う。日本のそういうところも含めてマッチングが必要かなと感じている。</p>
熊倉委員長	<p>岩佐委員、意見はどうか？</p>
岩佐委員	<p>今年は勤務者数が7人ということだが、これにめげずにどんどん進めていただきたいと個人的には思っている。というのは、ITは地方にとって将来的に大きな力になることは間違いない。これを確実にやっていくことはすごく重要なことだと思う。ただ、ITと言っても非常に幅が広い。デザインと言っても幅が広いのと同じように、ITと言っても非常に幅が広いので、その16社をどの方向性に持っていくのかということは、集積をさせていくひとつの戦略として非常に重要なところになると思う。例えば何かの分野に長けたIT企業がこの南魚沼に100社、200社集まるのは非常に難しい。50社を目標としたとしても、ある特定の分野に関しては全ていけるとか、システム開発的なことは全ていけるとか、ある程度特化していくことによって、優位性は大きく出てくると思う。それだけ集積すると、他のものもそのネットワークで持っていけますので、そこに優秀なものがあれば、私たちが「あれやりたいんだけど」となったときに「それだったらインドの知り合いのあそこがやってる」とか、そういう形になるのではないかと。個人的には、私もシステムとか</p>

	にそれなりのお金をかけて、いろいろなことをやっているの、お願いしたいのは山々なんです、現時点では何をしているのか、何が得意なのかよくわからない状態なので、どちらかというと様子見である。ただ、将来的にはいい仕事ができればよいと思っている。
熊倉委員長	そうしますとトータルで考えたときに、市の担当だけで悩まずに、実際どんな状態であるのかということ、市内の皆さんに伝えながら、慌てずに、しかし少しでも成功事例が出て、こういう集積ができそうだと、焦らずにたゆまずやってみよう。ただ、財政に関して、国からの次の交付金は難しいと思うので、庁内外の理解をいただくということが必要かなということで、皆さんよろしいでしょうか？（全員了承） できれば、アダムイノベーションの社長がきて、皆さんにこうなんだよという話をさせていただくと、いろんなところで皆さんの理解が深まるかと思うので、銀行とか商工会とかを招いて、現実にこんなことをやっていますという、こんな力が欲しいんだということを話す機会を作ってあげてください。

- 事業No.2 「生涯活躍のまち」構想推進事業
- 事業No.3 「住まう歓びを感じるまち 南魚沼」実現プロジェクト
- (立川U&Iときめき課長) 事前配布資料：資料No.1・2により説明

- <事業No.2 「生涯活躍のまち」構想推進事業>
- <事業No.3 「住まう歓びを感じるまち 南魚沼」実現プロジェクト>

熊倉委員長	6月23日にCCRCに関しては推進協議会があるので、そこで検証していただくとして、CCRC推進協議会のメンバー以外の方から意見をいただきたい。高橋委員これについてどうか？
高橋委員	個人的に興味があったのが、「中高年齢者向け移住希望者への見える化事業」の中で、ウェブサイトの大幅な見直しを図ったとあるが、結構大きな金額を掛けて作っているのだなと思った。私はまだ見ていないが、大まかに変えたことによってどれくらい効果があったのかという部分を知りたい。訪問者数や検索数などでどれくらい増えたのかという部分をお聞きしたい。
熊倉委員長	事務局、分かる範囲で答弁願いたい。
立川U&I ときめき課長	ただいま訪問者数等のデータは持っていないので、ご容赦いただきたい。実施した内容だが、今まで市のウェブサイトの中でバラバラにあったような情報提供の窓口を一つ別のエリアでまとめてプラットフォーム化を図ったというところ。大幅な内容変更ということになると、今までのデータ、情報が一つの画面で全てアクセスができるようになった。もう一つは、インタビュー等の記事も載せてリアルタイムにする形への中身の変更である。

	(※後日、市ウェブサイトの訪問者や検索の増加数について担当課に確認。今現在の累計の訪問者数(7月24日現在、「移住定住促進」ページのアクセス数14,223件)はわかるが、ウェブサイト見直し前の訪問者数がわからないため、どれくらい増えたのかは不明。)
熊倉委員長	高橋委員、今の答弁で納得できたか?他に聞くことはあるか?
高橋委員	南魚沼市のウェブサイトにいけば、すぐわかるようになっているのか?
立川U&I ときめき課 長	移住施策ということで、トップページに入口が作ってある。
高橋委員	今後、確認してみる。
熊倉委員長	6月23日までにウェブサイトを見て意見があれば、今日いるCCRC推進協議会のメンバーに伝えて、協議会の検証に意見として加えて欲しい。事務局側も質問のあった数値が出せるようにチェックをしていただきたい。矢口委員どうか?
矢口委員	この人数が多いかどうかはわからないが、結局この分以上に南魚沼市から出て行くと思うので、この数値が評価的にいいのかどうかは、私的にはわからない。皆さんはどう思っているのかなと思った。もう一点が、移住に向けて20棟の家が建つという話を聞いたが、それは見込みが無いのに20棟一度に家を建ててしまうのか、そのことについて聞きたい。
熊倉委員長	事務局、率直に答弁願います。
清水総務部 部参事	まず2点目の20棟建つかどうかについては、6月議会でも多くの質問をいただいた点。この点については、提携事業パートナーと協議中で、当然だが入る見込みのない建物は作らない。私どもも最後は市が面倒を見るから作ってくれというようなことは一切言わない。このことは心配しなくても、入る見込みが無ければ建てない。ただ、例えば10棟だけオーダーがあったということであれば、その10棟だけ進めるようになる。今、20棟という話があったが、計画では50戸となっている。あと、人数が多いかどうかということだが、人口減少の面から考えると、転出よりも転入が多くならなければならないということになるが、現状からすると逆転するほどの力は持っていない事業だという認識。だが、IターンやUターンを誘発する起爆剤になることは確かだと思っている。今はまだKPIを低く設定しているが、これを早く達成して、次の段階のKPIに引き上げていく形で進めていくことが理想だと思っている。
熊倉委員長	市長、何か意見はあるか?
林市長	最初の一步だと私は思っている。私の一番の公約は若者をこちらに呼び戻すこと。2025年には、いろいろな形で介護のことが問題となって出てくるであろうし、これらに取り組んでいることが、大げさに言えば世を救うような、そういう地方でありたいと思っているので、これは始まりの一步だと考えている。なるべく当初の計画通りに進めていきたいと思っている。

熊倉委員長	<p>CCRCという話は、全国的な話題にはなっているが、最初に旗を立てているのはここなので、そういう意味でどうやってこれをみんなで悩みながら、苦しみながら、市全体で共有しながら考えていくことがとても必要なことになってくると思う。そのときに一番手に手を上げたから、とにかく突っ走るんだということでないように、みんなできちんと議論をしながら走るべきときは走るし、抑えるべきものは抑える。そういう議論が深まることはとてもいいことなので、矢口委員や高橋委員の厳しい質問はとてもいい質問だ。これを励みとして、ぜひ担当課は進めていただきたい。</p> <p>もう一人、羽吹委員も推進協議会のメンバーではないと思うので、意見ををお願いします。</p>
羽吹委員	<p>お試し居住者が何人かいると思うが、その人たちが来て、どういう感想を持ったのか、あとビジネス研究会の参加事業者もどういう感想を持ったのか？それが、昨年の移住者が104人ということだが、この人たちとの関係性があるのかどうか。今後進めていくうえで、こういうお試し居住をした人たちに、どういう思いがあったのかという部分について聞かせてもらいたい。</p>
熊倉委員長	<p>立川課長、応えられる範囲で答弁願いたい。</p>
立川U&I ときめき課 長	<p>一点目のお試し居住者の感想についてだが、こちらの方に興味があって事前学習をしたうえで来た方がメインとなるが、「雪が降っていても道は大丈夫なのですね。」というところから始まり、環境に対する考え方については、誤解が解けたという感想がある。逆に言えば、雪は障害ではなく、魅力の一つだなという感想もある。来ていただいた方に関しては、そのような感想があった。来た方がここで何をしたいか、こういうことをしたい、というところが重要なのだが、現実にそれができるかという部分はこれから始まるので、それは今後もニーズを把握しながら、再生法人と一緒に考えていくべきことだと思っている。ビジネス研究会の関係もやはり同じような形で、やりたいことはあり、こちらの方に来たいという声はあるが、環境などのことから、話が進んでいない状況。広い皆さんに市というものを知ってもらい、来たときにどんなことをしたいのか、どんなことができるのか、ということをいかに地元の皆さんと一緒に作り上げていくか、これが今後の課題だと認識している。</p>
熊倉委員長	<p>矢口委員、羽吹委員、今の答弁で納得できたか？（はい。）</p>
清水総務部 部参事	<p>一点追加説明をします。実績値のところでは104人の中にどういう関係があったかという部分だが、直接このCCRCから、この104人の中に関係性があるというのは、私どもが把握している中だと、2世帯になる。ただ、私どもはCCRC構想で想定した活躍の場、その場での活躍できる方に来ていただくということがあるので、そういう意味からすると、嬉しい想定外というところもある。実際に来ていただいている方は、看護師資格を持っている方で、実際に活躍していただいている場所は、障が</p>

	<p>い者の相談センター。そういったところで、最後は力を出したいということで、来ていただいている方がそれぞれ 1 戸ずついる。1 戸については、夫婦と子ども 2 人の 4 人世帯で、すでに移住をしている。この秋には、別の方でもうひと方、9 月までの勤務ということで、リタイアに合わせて秋にはこちらに移住するという。私どもで把握している、直接私どもに連絡をいただいて、今も交流を進めながら地域で活躍いただいている方の参考ということで説明させていただいた。この 104 人の数字の捉え方とは違う部分になるが、参考までに説明した。</p>
熊倉委員長	<p>羽吹委員どうか？</p>
羽吹委員	<p>せっかくお試し居住に来ていただいた方がいるので、その人たちの話をよく聞いて、今後は進めることがひとつかなと思う。それと、いろいろな人から話を聞くが、この地域の人不安がっているところがある。というのは、高齢者の方に来てもらって、それを市で介護することになるのではないかと、という負のことを言っている人が結構多い。私自身も細かくよくわからないので、それについては何も言えないところがある。これはいいことをやっているはずなので、それをもっと地域の人に理解してもらえるように、もう少し情報発信をした方がいいと思う。特に外から来る人は、不安がってくるわけなので、やはり地元と一緒に生活するには、地元の理解がないとなかなか難しいところがあると思う。このあたりは、思っている以上に地域の人理解はまだされていないような気がする。その面についても、もっと力を入れた方がいいのではないかとと思う。</p>
熊倉委員長	<p>これは意見という形で受け止めていただきたい。推進協議会に加わっている委員の方は、推進協議会に関わっていない委員の方が、こんな意見を持っているという部分を加えて、6 月 23 日の議論をさらに深めていただきたい。大谷委員いかがか？</p>
大谷委員	<p>数軒の方が、すでに居住もしているということで、非常に挑戦的でアグレッシブなことだと思う。私もずいぶん経つが移住者の一人として、羽吹委員が言ったように、乱暴な言い方だが、さっきの IT であれば、うまくいかなかった場合、サヨナラということができるのだろうが、これ（CCRC）は、南魚沼市がこういう構想でやりますから来てくださいということ。来てくれたんだから住民の皆さんこうしてください、ああしてください、と来てからそう言われても、たぶん不幸な話にしかならないと思う。これは地域の仕組みをどう醸成させるかというところが、うまく行くか、行かないか、アグレッシブな試みの一番大きなポイントなんじゃないかなと思う。また、こういうことをやりたいと思って来る人であればあるほど、受け入れ態勢というのは非常に大切なこと。本当に来てくれと言われたから来たのに、なにこの状況はと、私は活躍したいと思って来たのに、どこも話を聞いてくれない、どうするんだろ？という状況になるのが非常に心配ではある。日本で初めてのことであるの</p>

	で、やらなければならないことがたくさんあるのはよくわかる。組織を立ち上げて、そういうところでやろうというのは、当然の仕組みなのだろうと思うが、具体的にどういう人たちが、どういう役割、権限を持って、どのぐらいの経費でやるのかという部分も見えないので、一市民の素朴な感想として知ってみたいと思う。
熊倉委員長	ぜひ、29年度、30年度、市民の皆さんの不安とか、逆に希望とかを合わせて、それに答えられるようなPR活動を行って、気運が盛り上がるのが、よそから来る方とのマッチングをすることになると思うので、ぜひ力を入れていただきたいと思う。県の立場から見て、永井委員、これはどう思うか？他地域のことも含めて。
永井委員	人口問題については、県も市同様に大きな課題と認識しており、このように移住者を増やす試みについて、私どもも非常に注目して見ている。KPIについても、目標を超えている事業もあり、素晴らしいと思っている。お試し居住参加者数の目標値が20組40人となっているが、これは1組2人という試算からだと思うが、実際の今年の数値が17組20人ということで、1組2人の試算からすれば、17組34人という数値に近くなっていいのかなと思うが、17組20人となれば、ほとんど1組1人ということになると思うが、そのあたりの想定と実際が違うような部分があったら教えて欲しい。
熊倉委員長	立川課長、理由がわかるか？
立川U&I ときめき課 長	市がスケジュールを組んでいるため、夫婦で話し合っ、じゃあ行こうかということにならないと、なかなか夫婦で来てもらえない。興味のある方は夫婦と一緒に来る場合もあるが、首都圏での研修会の延長で来るので、お試し居住は、なかなか家族で来るという状況ではない。そのため、29年度については、ある程度通年で受け入れできるような体制を作っていきたいと考えている。
熊倉委員長	お試し居住の前の事前調査に家族の誰かが来ているという傾向か。3ステップあるということだが、これはいいことだと思う。ではこの部分については、意見が整理されてきたので、6月23日の推進協議会の中で、もう一度チェックして国に報告するようにしていただきたい。

- 事業No.4 中越文化・観光産業支援機構（仮称）による歴史資源を活かした観光振興
 事業No.5 中越文化・観光産業支援機構による歴史資源・行政視察を活用した広域観光
 （腰越商工観光課長）事前配布資料：資料No.1-2により説明

<事業No.4 中越文化・観光産業支援機構（仮称）による歴史資源を活かした観光振興>

<事業No.5 中越文化・観光産業支援機構による歴史資源・行政視察を活用した広域観光>

熊倉委員長	これについては、皆さんから率直な意見を出していただきたいと思う。岩佐委員、これについてどう思うか？
-------	---

岩佐委員	予算も非常に少ない事業なので、効果をどうやって出すのかという部分が見えにくいのが正直なところ。その中で、策はいろいろあると思うが、例えばダムに絞るとか、ツアーに絞るとか、そうしないと予算が少ない中では効果が出ないと思うので、総じていいのではないかなと思う。私も雪国観光圏で活動をしている。希望として、ぜひ、雪国観光圏との連携も含めて、この中越文化・観光産業支援機構と一緒に何かできればと思う。同じ地域の中にたくさんのも（同じような仕組み）が出来上がると、どこが何をやっているのか分からなくなるので、そのあたりの整理も必要なのかなと思う。
熊倉委員長	大谷委員、どうか？
大谷委員	岩佐委員が言うように、少額なのでこれで評価というのは難しいかなと思う。ダムという切り口の事業ということだが、ダムカードはもともと三国川ダムには無かったのか？
樋口産業振興部長	もともとあった。今回、限定ダムカードを作成した。
大谷委員	当社にも夢中でダムカードを集めている社員がおり、人気があることはわかる。私は鉄道会社で、よく沿線のお客を案内することがある。最近しみじみ感じるのが、やはり地元の人が行かないところは、よそから来た人もあまり行かない。地元の人がせっかく来たのだから、あそこに連れて行ってあげるよ、とか、あそこ行きなよ、と言うところは行っても楽しい。地元の人が行かないところは行っても面白くない。何が言いたいかというと、ダムカードをやるのであれば、もう少し市民の皆さんにも、南魚沼市では、いまダムを推していますよ、とか、市民の皆さんもダムに行ってみてはいかがですか、とか、そういうPR等もある意味で大事なんじゃないのかなという気がする。のぼり一本立てるのでも、広報に少し記事を載せるだけでも、ずいぶん違うのではないかなと思う。そういうことを合わせることで、より効果が出たり、市民が多く行くようになって、よそから来た人も行くようになることもあるのではないかなと思っている。細かい事業に関しては、そういう作戦も大事かなと思う。
熊倉委員長	高橋委員、いかがか？
高橋委員	ダムに人気があるという話は聞いたことがあるが、これほど人気があるということは、初めて知った。モニターツアーを企画したということで、取材しなかったと思っているが、機会を逃してしまったので、今後モニターではなく、ツアーが実際行われるようになったら、ぜひ取材してみたい。
熊倉委員長	矢口委員、いかがか？
矢口委員	これについては、所詮モニターなので、私たち民宿にどう繋がっていくのかという部分のコメントが難しい。
熊倉委員長	逆にそういう仕組みを考えていないのが、率直におかしいということ

	はないか。
矢口委員	私たち民宿は、お客を地元にある美術館とかに連れて行ったりしている。お客だけで行ってもらうことができず、私たちもついて行って、入場料を支払っている。そういう負担がなくなると、もっと地元で民宿の方が貢献してくれるのではないかなと思う。
熊倉委員長	それはとてもいい話だと思うし、財政措置も考えてみていただきたい。逆に、矢口委員、ダムに連れて行こうということ自分で考えるかということですよ？それだけの魅力があるのかということもチェックしておいた方がいいと思うし、課長の立場からすれば、これは何かしなければいけないんだけど、長岡市中心で動いているところに、ある意味では付き合いで乗っていけばいいという部分と、本当にそれを利用して、自分のところの観光なり、ブランド力のアップにどう使っていくかに切り分ける。雪国観光圏があるので、こちらは切り分けて、あまり無理はしない方がいいのではないかなというのが率直な感想。K P I の達成は、入込客数（これ）だけで達成するのは無理ですよ？事業評価について「①総合戦略のK P I 達成に有効であった」としてみたが、実は悩んでいるというのは言うとおりでと思うので、このとおりの評価でいいと思う。その他この部分について、意見はあるか？無ければこの程度でいかがか？（全員了承）

② まち・ひと・しごと創生総合戦略 全体の進捗状況について

（宮崎企画主幹）事前配布資料：資料No.2 により説明

熊倉委員長	これをきちんと議論していくと長時間かかってしまう。今日のところは、6月までに国に加速化を含む交付金について、評価をあげなければいけないということで集まっていた。この部分については、今の状況について報告を受けて、次の予定があり退席をしなければならない塚野委員と樋口委員の二人から、意見をいただきたい。
樋口委員	事前資料をいただいているので、全体的に見て 75% 以上いってれば OK なのかなと印を付けていた。全体的にどうなのかというところを知りたいと思っていて、先ほど1から4の大きな区分の中で、割合的などころを示してもらったので、全体的には、概ねいい感じで推移しているのかなというところだが、達成率が 50% 未満のところはいくつか見受けられる。一つだけよくてもだめで、全体的なところを押し上げていくという部分も一つの視点として必要なかなと思う。低いところをどう上げていくかという部分を、検証して進めていく必要があるのかなと全体を見て把握したところだ。
熊倉委員長	極めて的確な指摘だと思う。たぶん担当課も企画政策課も同じ考え方だと思う。
塚野委員	KPI の困難度にバラつきがあるようなものだと思うので、一概に達成率

	が低いので、どうこう言えないものもあるのかなと思う。そういう意味でかなり効果が出ているものも多いのかなと感じている。非常に重要なものが多いし、中長期的にずっと続けるべきものもあるので、ぜひ引き続き取り組んでいただきたいと思います。
熊倉委員長	できればこの課題については、28年度のまとめが出来て、9月の決算の承認を得た後で、もう一度、30年度、31年度に向けて、皆さんの意見をいただくということで、9月下旬にでもこの部分については、もう少し踏み込んで議論ができればいいと思っている。そこで、今日は報告という形に留めたいと思っている。ただ、どうしても、このことだけは今言っておきたいということが、総合戦略の現状に関してあれば、意見をいただきたい。(意見なし)

③ H29 地方創生交付金事業の概要について

「2 款 総務費」

(立川U&I ときめき課長) 事前配布資料：資料No.3 により説明

熊倉委員長	羽吹委員、これを聞いてどうか？
羽吹委員	特に大きな問題はない。昨年もやっていることであり、内容を吟味して考えていると思うので、いい結果が出ることを期待している。
熊倉委員長	高橋委員は、これをいろいろなところでモニタリングしたいだろうと思うし、気になる場所があったら聞いていただきたい。
高橋委員	実際に移住して来た方の言葉を聞いてみたいという思いがあるが、今までそんな機会がなかった。今後そういう機会があればお願いしたい。
熊倉委員長	意識的にこちらに来ている方は、個人情報のこともあるが、比較的そういうことについては、感触として情報を公開してくれそうか？
清水総務部 部参事	今、市報の中で1ページ、1日号で移住定住の特集を組んでいる。その中で、最近移住して来た方等を取材させていただいている。感触としては、そういう皆さんは快くインタビュー等も受けていただいていると思っている。既に市報の方は8月分、9月分まで取材の方も進んでいる状況。市報に載ることで、地域とのつながりについても、顔を覚えてもらうなど、いろいろなことがあるのかなと思っている。私どもも、移住された方もありがたいと思う。これについては今後も続けていきたい。
熊倉委員長	これについて、岩佐委員どうか？
岩佐委員	単なる感想ですが、うちのスタッフが市報に載せていただき、非常に喜んでいました。やはりこういう形で市報に載ったり、いろいろなところに参加させてもらったりすることが、移住者にとって一番ありがたいのかなと思う。こういう形で既存のものまで含めて、活動しながら進めていただけるといいと思う。
熊倉委員長	この問題については、当然議会に報告して承認してもらっていると思うが、議員から市民、あるいは市内の有識者が特にこの問題について、こ

	<p>んなところを意識して知っていて欲しいというような意見があったか？</p> <p>市の言うことは了承する、みんなで押して行こうというときに、市民はよく知っていて欲しいとか、市民にこの部分を特によく説明しろとか、という点の意見はあったか？</p>
清水総務部 部参事	<p>先ほどもこの中で意見をいただいたが、まだまだ市民の中に理解が進んでいない。特にC C R Cという言葉は、高齢者が移住してくると、介護が必要な方が来るようなイメージがあるようで、そのあたりの誤解を招いている。それと、施設をすぐ作るのか、過剰投資じゃないか、ということで、市の方が整備する施設ではないということを行っているが、そのあたりの理解がまだいただけていない。これは私どものPR不足によるところ。また、諸事業をどう進めて、どこに効果があるのか、というのはなかなか見えにくいという意見をいただいている。</p>
熊倉委員長	<p>この委員会は、市が行っていることに対して、第三者機関としてチェックしたり、意見を言うこともさることながら、市が進めようとしていることや、議会で承認されたことについて、市民の皆さんにそれぞれの立場から説明をしていく、市民の疑問や不安を聞いていくというのも一つの役割なので、そのへんのコミュニケーションも深めていただきたい。次に「5款 労働費」「7款 商工費」合わせて説明願いたい。</p>

「5款 労働費」「7款 商工費」

(腰越商工観光課長) 事前配布資料：資料No.3 により説明

熊倉委員長	<p>I C L O V Eの話もあったが、国際大学の役目も大きいと思うので、中島委員、これについて意見があればお願いしたい。</p>
中島委員	<p>南魚沼市の地方創生推進に対する取組としては、積極的で総じてよいのではないかと考えている。個人的な意見だが、I Tパークに関しては、南魚沼市の事業の中にも、ウェブサイトの開発だとか何点かあるが、できればI Tパークの企業も入札に参加できるところまでサポートいただいて、成功事例の一つになればいいかなと思う。地方自治体の業務を受けたということは、その会社の信用につながるので、その次の展開に発展していく一助となるのではないかと考える。観光については、国を挙げてインバウンドということで、海外からの観光客を呼び込んでいるが、東南アジアを中心として、日本に来たいという方は多数いるが、行く場所が限られるという場合がある。ムスリムの方々は、食べ物が限られるということがある。南魚沼市は「本気井」ということで、大々的に取り組んでいるが、それに類して「本気ハラル井」のようなものを立ち上げて、海外を中心にSNS等でPRすれば、日本に来たいという東南アジアの方を呼び込む重要なツールになるのではないかと考えている。もう一つ、雇用についてだが、市長の先ほどの話にもあったように、若者を呼び込みたいという部分は、ぜひ進めていただきたいと思うが、いろい</p>

	<p>ろな大学の就職支援課と直接、情報共有して連携し、情報を学生に伝えるということをやると、もしかしたら南魚沼市にちょっと行ってみようかな、というところにつながるのではないかなと思う。</p>
熊倉委員長	<p>塚野委員、まとめを含めて意見をお願いしたい。</p>
塚野委員	<p>商工費の部分で、クラウドファンディングの話が出たが、非常に金融機関としてもこちらは注目している。特に小規模な事業者としては、マーケティングの機会というのは、限られている。ミュージックセキュリテーズを始め、会員の多い企業だと、会員の方にプロモーションができるという意味では、非常にいい仕組みだと思っているので、次回はぜひ、もう少し予算枠を広げていただけるといいと思っている。</p>
熊倉委員長	<p>藤ノ木委員、どうか？</p>
藤ノ木委員	<p>先ほど広報の話が出ていたが、いろいろな事業をしているということを広報することはすごくいいことだと思っていて、CCRCもそうだが、住民に理解してもらうためには、広報はとても大切なものだと思う。特に高齢者の方は、広報をよく見ている。ハード事業は目につきやすかったりするが、ソフト事業は評価しにくいし、目にも見えにくいというところがあるので、ぜひ住民の皆さんにきちんと見えるような形で広報していただきたい。わかりやすい形で、市民の方にPRしていただけたら効果が深まると思う。</p>
熊倉委員長	<p>伝えることの大切さということが、全体の中でキーワードかなと思う。この地方創生に関しては、国がいくつも制度を作ってきて、金をやるよと言いながら、どこにかけたらいいかかわからない状況の中で、市の担当の皆さん方は、ここ2年3年苦しまれたと思う。それを議会の皆さん方もバックアップしてくれたが、今度は市民にそれをどう伝えて、一緒に課題として考えていくか、「そういう町だったらこの町に来てみたいね、住みたいね」と皆さんが思うような、「国内外から企業拠点をもちたいね」という風になるような、伝える努力ということに29年度、30年度は少し力を入れていくといいかな、ということをお聞きしたい。議論の最後に県の立場で、永井委員、意見をお願いしたい。</p>
永井委員	<p>県としても市に協力して役に立ちたい部分はある。県の事業は予算的にもいろいろ縛りがあったり、目的が違ったりして、なかなかうまく行かない部分もある。今ほど広報の話があったが、新しい知事も広報に関しては、非常に力を入れるということを行っている。いろいろな事業をやっても、それが伝わらなければ、やっていないのと一緒だということで、地域振興局でも広報に力を入れているし、本庁でも各課の広報委員を広報広聴課兼務という形で体制を強化して取り組んでいる。事業を必要な人に伝えることはもちろんだが、直接関係のない人でもそれを知ったことによって、別の人に、人伝いに話が伝わっていくという効果もある。これからは情報発信というのが非常に大事な部分になってくると思う</p>

	し、そうやって市民の理解が深まっていくということにつながっていくと思うので、県も市と力を合わせてやっていきたいと思っている。
熊倉委員長	今日は報告が大変多かったのですが、まだ言い足りないところがあると思うが、議論はここまでとしたい。

④ その他

(片桐企画政策課長)

皆さんをこの会議の委員に委嘱してから、この6月30日で2年を迎えることとなった。配布資料の資料No.4にこの会議の設置要綱が配布されていると思うが、この任期については、第4条で決められており、委員の任期は2年とされている。ただし、第4条の第3項で、委員の再任は妨げないものとなっている。事務局の考えとしては、ここにいる委員の皆さんの多くは、総合戦略策定のと時から関わっていただき、初年度は年3回以上の会議を開催した中で、総合戦略を策定し、そして今の効果検証をしていただいている。この総合戦略の一つの区切りというのは、5年間となっており、この5年目の検証を行うのは、6年目ということになるため、事務局の気持ちとしては、皆さんに最後までお願いしたいというのが一つの希望。ということになると、6年間という話になりますが、事務局としては、そこまでは先が見通せない部分もあり、異動、転勤などもあるかと思うので、さしあたって次回の第2期目の委員に皆さんからなっただきたいということをお願いしたい。これから事務局の方で、皆さん宛の文書を配らせていただく。その文書の中に承諾の可否を記載する部分があるので、後日、返信用封筒にて回答いただきたい。事務局からは以上です。

(熊倉委員長)

これについては、それぞれお考えいただきたい。

4.閉会

(熊倉委員長)

それでは以上をもちまして、第4回南魚沼市まち・ひと・しごと創生推進会議を終了いたします。大変お疲れ様でした。